

佐土原町文化財調査報告書第13集

佐土原町内遺跡Ⅱ

開発事業に伴う事前試掘・確認調査

1999. 3

宮崎県宮崎郡佐土原町教育委員会

序

佐土原町は、地理的にも気候上からも、人々が過ごしやすい環境にあります。そのため古くは旧石器時代から近世に至るまで数多くの遺跡が台地・丘陵・低地と、いたるところに点在しています。そこで遺跡の現況を把握する目的で、平成元年度から平成2年度まで佐土原町遺跡詳細分布調査を実施しました。それらの調査を基に遺跡分布地図を作成し、開発事業の際はこの分布図に基づいて事前に試掘・確認調査を行い遺跡保存に努めてまいりました。平成7年度からは毎年町内遺跡発掘調査を進めているところでもあります。

本町教育委員会は、平成10年3月に平成8年度、9年度に実施した町内の試掘・確認調査の結果を「町内遺跡Ⅰ」として報告しました。

本書は、佐土原町教育委員会が平成9年度・平成10年度に実施した町内の試掘・確認調査の報告（町内遺跡Ⅱ）であります。

本書が埋蔵文化財に対する理解と認識を深める一助となることを期待します。最後に、調査に御協力を頂いた諸関係機関や地権者の方々に深く感謝申し上げます。

平成11年3月

佐土原町教育委員会

教育長 菊池俊彦

例 言

1. 本書は、佐土原町教育委員会が文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡
試掘・確認調査の報告書である。

2. 調査は下記の体制で行った。

平成9年度

調査主体	佐土原町教育委員会	教 育 長	小 野 勝
		社会教育課長	久 枝 六 郎
		同 課長補佐	新 名 賢 次
庶務担当		文化財係長	東 浩一郎
〃		主 幹	富 田 久
〃		主 任 主 事	黒 木 直 英
調査担当		主 査	木 村 明 史
調査補助員			櫛 間 史 朗
佐土城城跡歴史資料館館長			赤 木 達 也
資料館管理		臨 時 職 員	後 藤 啓 子

整 理 員

平成10年度

調査主体	佐土原町教育委員会	教 育 長	小 野 勝 (平成10年6月まで)
		〃	菊 池 俊 彦 (平成10年7月から)
		社会教育課長	郡 司 利 文
		同 課長補佐	杉 尾 一 雄 (平成10年10月から)
庶務担当		文化財係長	東 浩一郎
〃		主 任 主 事	黒 木 直 英
調査担当		主 査	木 村 明 史
調査補助員			櫛 間 史 朗
佐土原城跡歴史資料館館長			赤 木 達 也
資料館管理		臨 時 職 員	後 藤 啓 子

整 理 員

3. 土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版 標準土色帖」による。

4. 出土遺物は、佐土原町教育委員会（佐土原町出土文化財管理センター）で保管している。

5. 本書の編集・執筆は、木村明史主査が行った。

目 次

I	はじめに	1
II	佐土原町の環境と調査地の概要	1
	1. 佐土原町の環境	
	2. 調査の目的	
	3. 各遺跡の位置と環境の概要	
III	試掘・確認調査	
	1. 十輪寺跡	4
	2. 曲田遺跡	12
	3. 石崎地区土地区画整理事業に伴う調査（中溝）	19
	4. 宝塔山地区公園開発に伴う調査（百貫地）	23
IV	おわりに	28

挿図目次

第1図	平成9・10年度町内遺跡試掘・確認調査地	3
第2図	十輪寺跡調査区図	4
第3図	曲田遺跡調査区図	12
第4図	石崎地区調査区図	19
第5図	宝塔山調査区図	23

図版目次

図版1	十輪寺跡	調査地写真	5
図版2	〃	調査地平面図	6
図版3	〃	遺物写真	7
図版4	〃	遺物実測図	8
図版5	〃	土層断面図	9
図版6	〃	〃	10
図版7	〃	〃	11
図版8	曲田遺跡	調査地空中写真	13
図版9	〃	調査区全図	14
図版10	〃	土層検出状況写真	15
図版11	〃	遺物写真	16
図版12	〃	遺物実測図	17
図版13	〃	土層断面図	18
図版14	石崎地区	調査地空中写真	20
図版15	〃	調査地平面図	21
図版16	〃	調査地全景写真	22
図版17	宝塔山	調査地空中写真	24
図版18	〃	調査地平面図	25
図版19	〃	土層検出状況写真	26
図版20	〃	土層断面図	27



I はじめに

1. 調査の経緯

今次（佐土原町内遺跡Ⅱ）の報告書（第13集）の内容は、十輪寺跡、曲田遺跡、石崎地区遺跡（仮称）、宝塔山地区公園遺跡（仮称）の4カ所の試掘確認調査の報告である。

いずれも佐土原町の開発事業に伴う、試掘確認調査である。期間はいずれも平成10年3月から平成11年2月までに実施された短期間の調査である。

それぞれの調査について事前の事業説明が行われ、予定地の確認調査を行い、調査の結果を調査地毎に関係者に報告した。

以下その内容である。

2. 調査の組織

例言のとおりである。

II 佐土原町の環境と調査地の概要

1. 佐土原町の環境

A. 自然環境

佐土原町は北に一ツ瀬川、東に日向灘に面し、南に県都宮崎市に接する56.84km²を有する地形である。

北西部に都於郡・仲間原台地（標高90～100m）があり、その南に一段低い船野台地（標高80～90m）が位置し、船野台地の南東に年居台地が（標高80～90m）東西方向に細長く延びている。

また仲間原台地の北側は鹿野田・上田島丘陵が位置し、町の中央部には国道10号と国道219号に挟まれるように標高60mから90mの佐土原丘陵が存在する。

又、一ツ瀬川沿いには川に沿って東西に低地が形成され、一ツ瀬川河口から石崎川河口地域には海岸砂丘がみられる。

I. 歴史的環境（出土遺物の分布を中心に）

一ツ瀬川は古代から日向地方における交通・交易の主要ルートの一つであった。古代から中世にかけて、日向の国の主要な街道・往還の結接点にある佐土原は、日向国分寺跡等に隣接する。

日向国分寺跡・国衛跡の屋根に葺く使用瓦の技術上の特徴と同じ瓦が、佐土原町大字東上那珂字山田に点在する下村窯跡群から出土した。特に、平成10年11月から平成11年1月にかけて西都市教育委員会が実施した日向国分寺跡の調査で同寺の伽藍配置のうち、回廊跡が確認されたことは、そこで多量に出土した瓦の中で下村窯跡出土の平瓦2種類（凸・凹：少し粗い縄目の横打ち後、磨消し、またはそのまま）、丸瓦1種類（凸：縄目の後、縦の削り・面取り）が認められ、下村窯跡群が同寺に対する供給窯である事をより確かなものにする資料となった。また、この瓦窯跡については、町内に叶迫遺跡・堂ヶ迫遺跡・河原田遺跡等いくつかの窯跡の存在が確認されている。また下村窯跡群は、瓦だけではなく、須恵器も生産する瓦陶兼業窯である。須恵器の供給先は、6～7世紀では横穴墓が中心であるが、その後は集落・寺院・城郭の消費地に移っていく。

但し、消費地の須恵器がどこから供給された器であるのかについては、現在のところ文様等の調整の特徴から検証する段階にきているといえる。

その他の佐土原町内の窯業関連遺跡は、江戸期の苗代焼物稽古所（場所：宝塔山、佐土原藩が陶業をおこす目的で苗代川から指導者を招いた施設）、高麗町（場所：城下周辺、朝鮮の役に関する陶工の町）、佐土原人形窯跡（場所：佐土原城跡内今坂池、土人形）があげられるが、最近の調査では佐土原城跡の本丸・居館部出土の瓦も町内の窯で担っていた可能性がでてきた。

以上、佐土原町内の窯業が盛んであった理由は、一ツ瀬川のルートの他に佐土原層に含まれる粘土層からの原料採集地の確保、生産した製品の広い範囲に渡る遠くまでの運搬を容易にするルート手段の充実（地上路としての飢肥街道・薩摩街道・肥後街道・米良街道）、日向の多様な面において中心に位置していた事等があげられる。

2. 調査の目的

県営並びに町の各種整備事業に伴い、開発事業と文化財保護との調和を図り、事業を円滑に推進するために遺跡の試掘を行う。

3. 各遺跡の位置と環境の概要

じゅうりんじ 十輪寺跡

十輪寺は、佐土原丘陵北西の頂上部標高約60mに位置する。十輪寺の所在する一帯は、「宝塔山」と呼ばれる山で、伊東氏時代から周辺には寺院が多く点在し、飢肥街道は山の一面を通り抜け町人町へ入るルートとなっている。即ち、山の持つ機能は、佐土原城の防御の一翼を担う一面と城内に入れぬ町人にとって精神的依存の場としての役割がある。

十輪寺は、真言宗である。真言宗は寺と神社が並立しており、その寺を別当寺と呼んでいる。

十輪寺は、別当寺にあたり、愛宕神社（創建は養老年間・720年前後）より南西100mの地に所在していた。

まがりだ 曲田遺跡

本調査地は、仲間原台地の北側に広がる山間の谷沿いで、標高11～16mの水田耕作地帯に位置する。この地の奈良・平安期以前は、海進の影響で川面が高く生活面は狭い範囲であった。その後、海退が進み、生活面は広がったが谷の川筋に沿っていたので水流の増減の為その範囲は不安定であったと考察される。

石崎地区遺跡（仮称）

当調査地は、日向灘の海岸線から西へ1.5km入った南北に続く砂丘上に位置する。前方砂丘緩斜面から低地にかけては、中世と弥生時代の水田跡、伊賀給遺跡が広がる。また、調査地南西方向の砂丘上には、弥生中期の土壘・竪穴式住居が確認された中溝遺跡がある。

宝塔山地区公園遺跡（仮称）

当調査地は、佐土原丘陵北西にある宝塔山の東側裾部標高約11mに位置している。付近には、同じく調査地から西側方向標高約60m・距離約400mの丘陵緩斜面に17世紀から18世紀にかけての使用と推測される苗代焼物稽古所跡がある。



佐土原町全図

凡例	
①	十輪寺跡
②	畑田遺跡
③	石崎地区
④	聖徳山

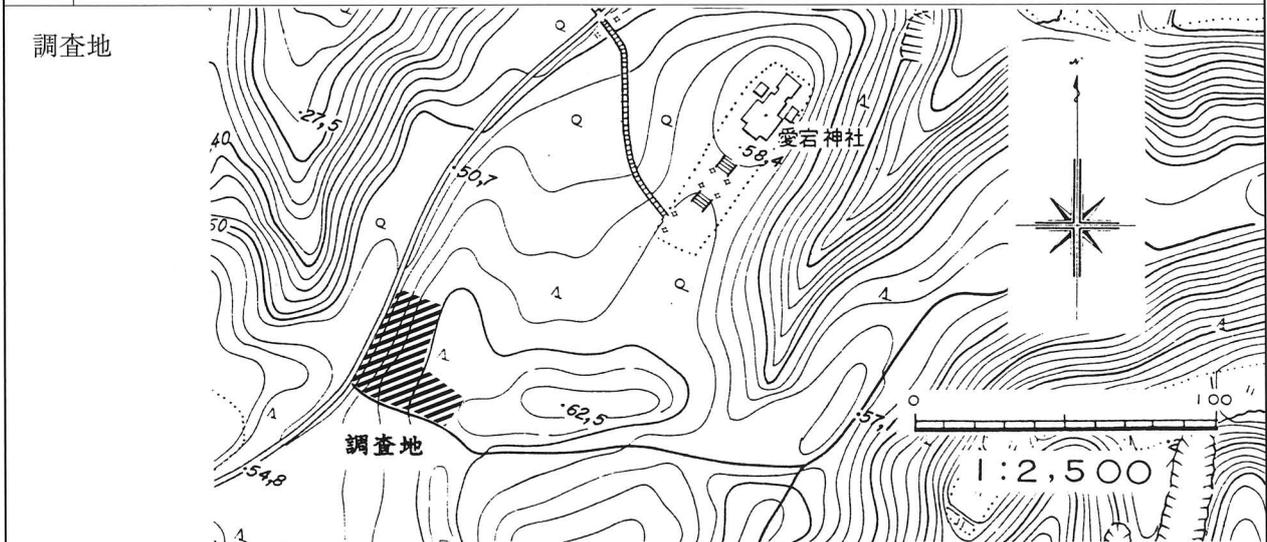
第1図 平成9・10年度町内遺跡試掘・確認調査地

平成五年一月 宮城県宮城郡佐土原町

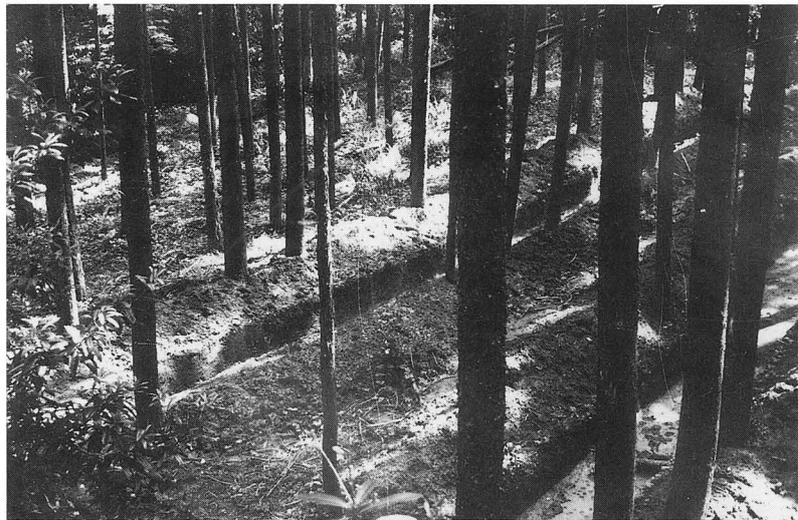
Ⅲ 試掘・確認調査

市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者	木村明史・櫛間史朗
遺跡名	十輪寺跡		所在地	佐土原町大字上田島字水廻	
調査原因	上水道配水池建設工事		調査面積	約 4,000㎡ (試掘面積464.7㎡)	
調査期間	平成10年 3月3日 ～ 3月27日		調査後の処置	現状保存 (埋土)	
遺跡の種別	寺院		遺跡の主な時代	古代・中世・近世	

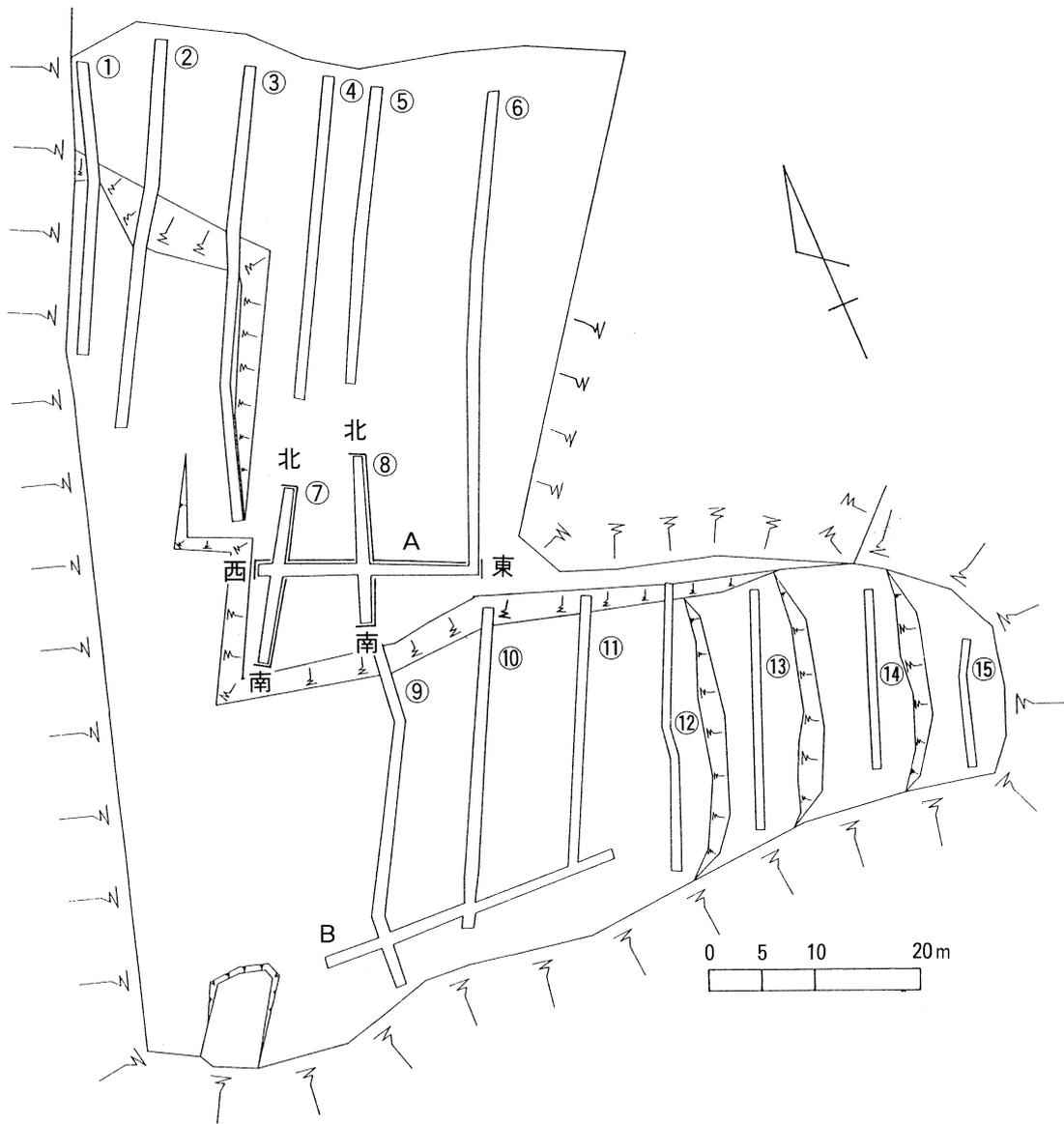
検出遺構	溝状遺構 柱穴
出土遺物	瓦 土師器 陶磁器 焼土塊 一銭硬貨 (明治9年銘入り)
特記事項	今回の確認調査では、現存する江戸期からの墓地周辺に寺院跡の遺構が検出された。遺構は、トレンチ7の5層上面から柱穴 (平面30cm×30cm) 1穴と溝が南北方向に1条確認できた。また、5層直下のアカホヤ火山灰層 (6,300年前) から土師器が1点出土しており、それらは上層からの攪乱による混入と推察される。



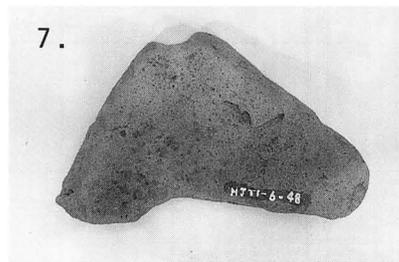
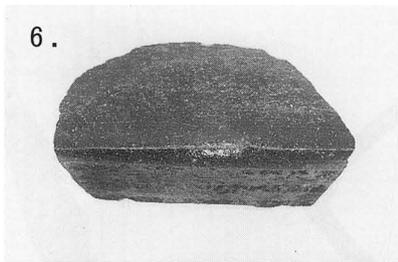
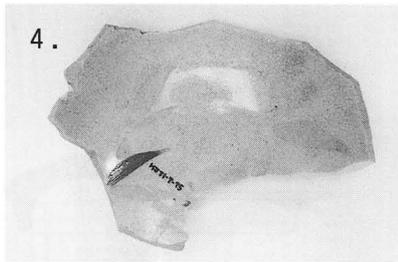
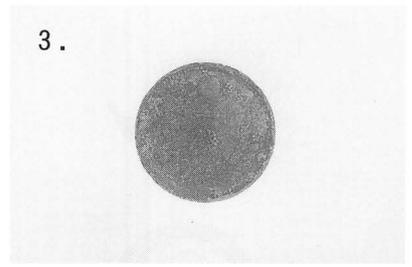
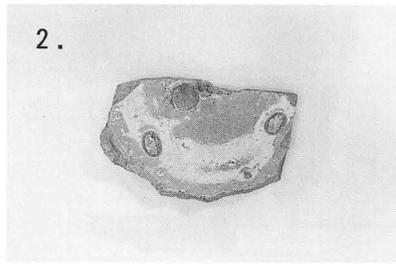
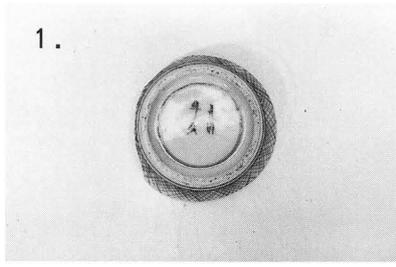
第2図 十輪寺跡調査区図



図版 1 十輪寺跡調査地写真

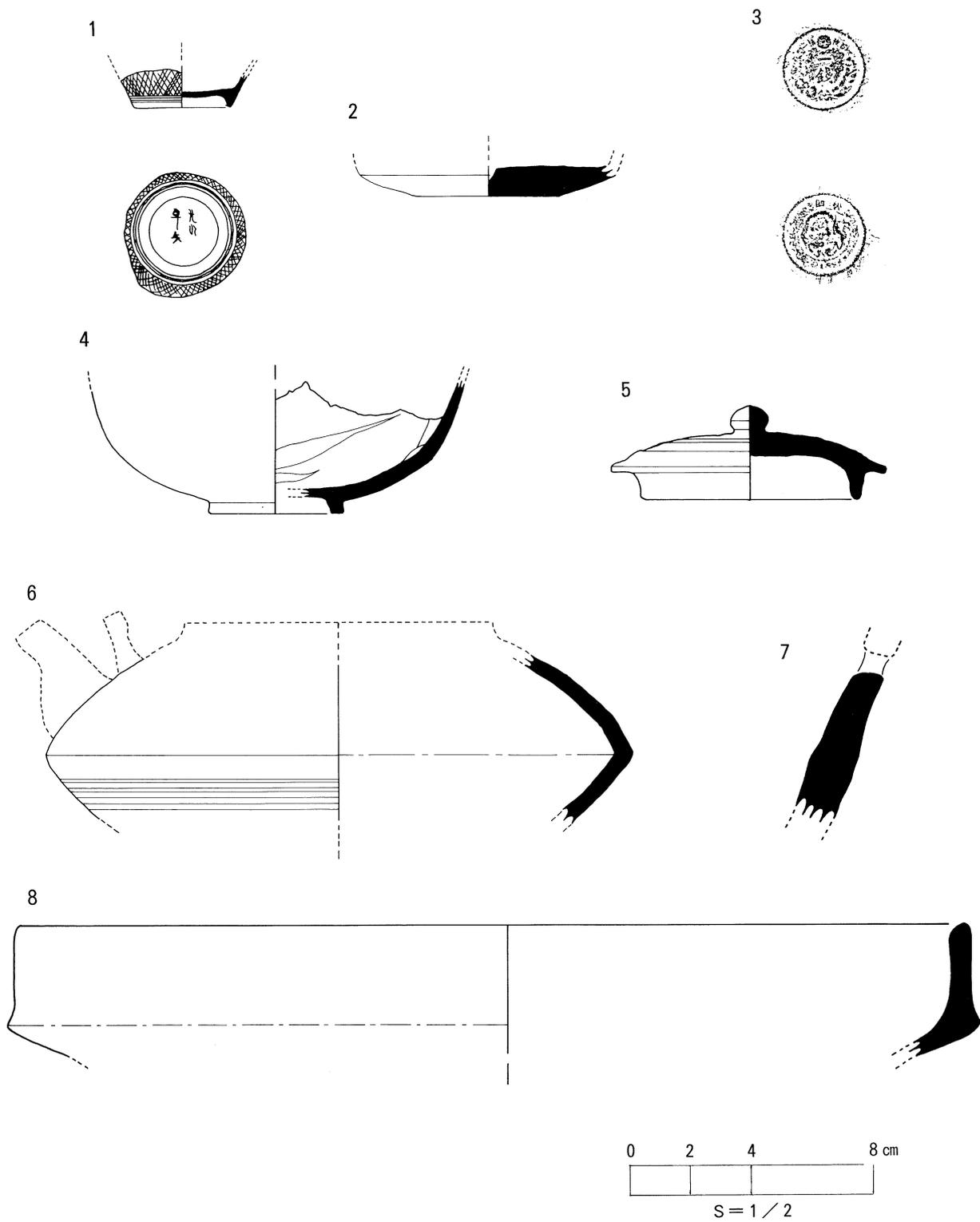


図版 2 十輪寺跡調査地平面図

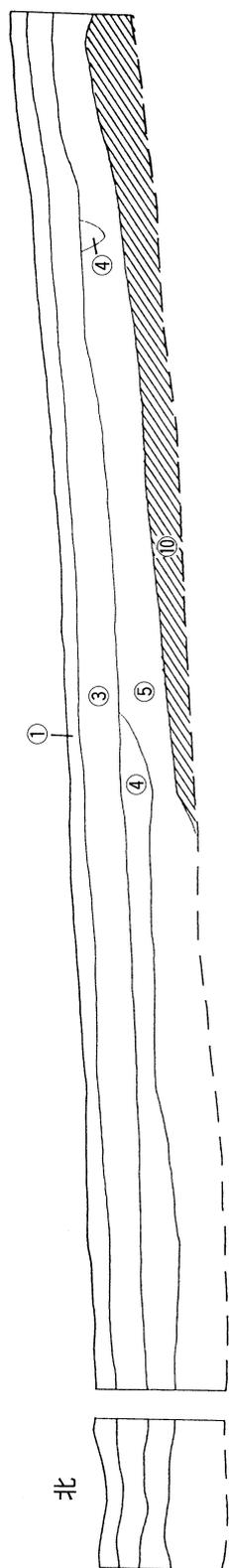


1. 小坏「大明年製」の銘・肥前（18世紀後半） 2. 碗 3. 一銭硬貨（明治9年銘入り）
4. 皿・色絵皿・笹紋・関西（18世紀） 5. 蓋・土瓶・関西系（18世紀半～19世紀）
6. 土瓶「そろばん玉型」・九州（18世紀～19世紀初） 7. 甕・土師質 8. 甕・土師質

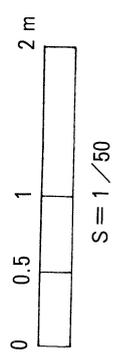
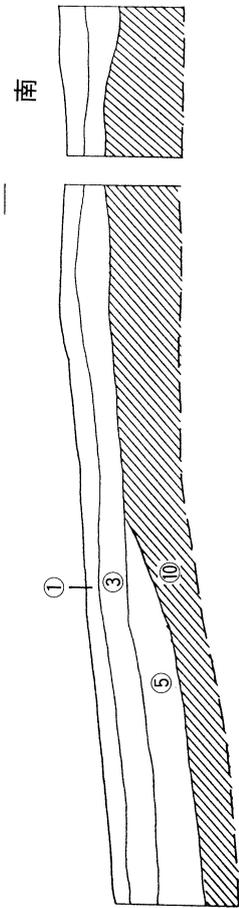
図版3 十輪寺跡遺物写真



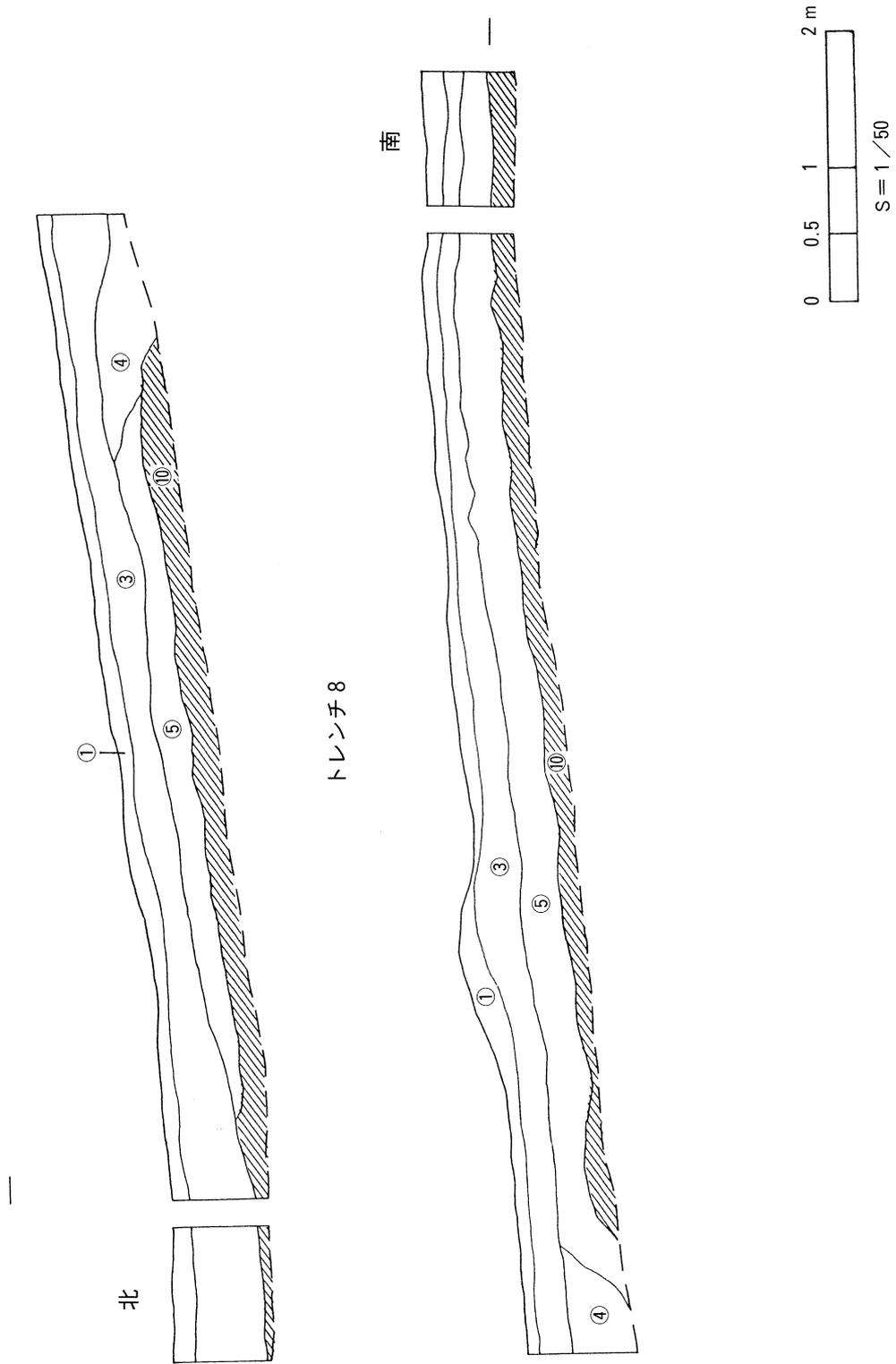
図版4 十輪寺跡遺物実測図



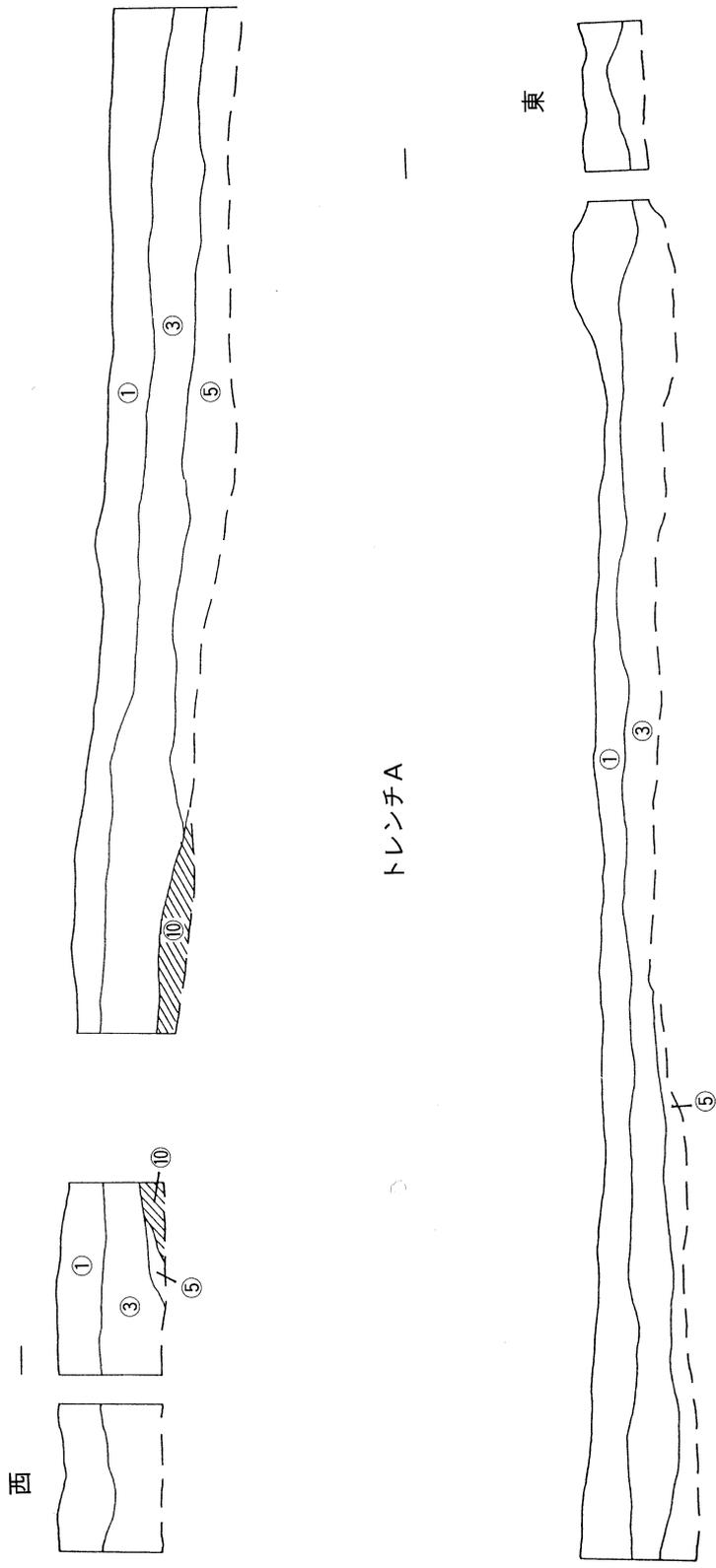
トレンチ7



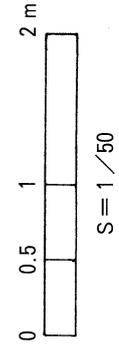
図版5 十輪寺跡土層断面図



図版 6 十輪寺跡土層断面図



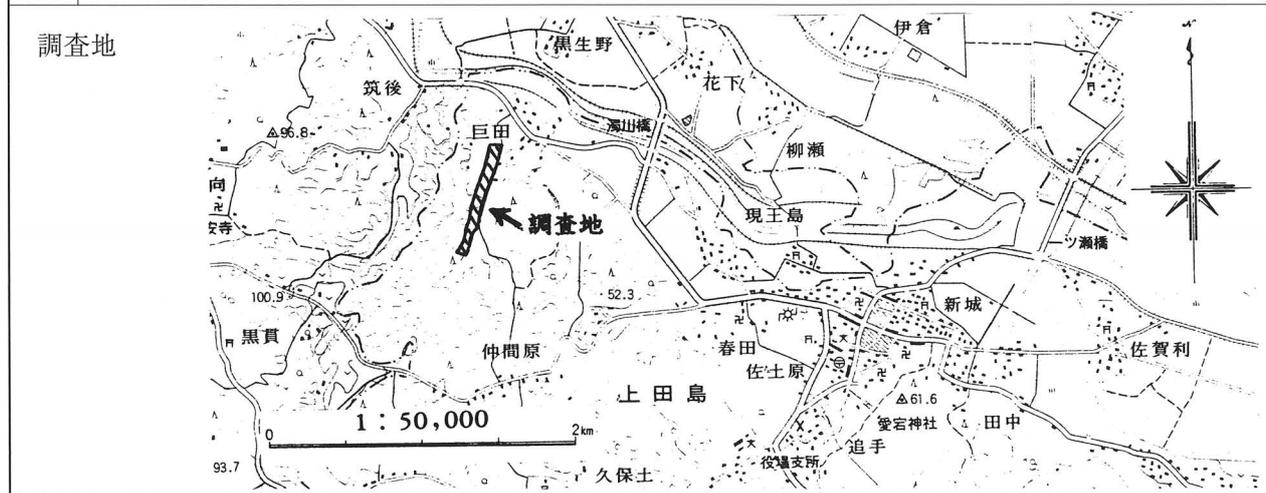
- ① 2.5YR3/1 黒褐色 地表面の腐葉土層
- ③ 5YR5/8 明赤褐色 アカホヤや火山灰層
- ④ 5YR3/1 黒褐色 シルト質の遺物包含層
- ⑤ 7.5YR4/6 褐色 粘土質、硬質化
- ⑩ 10YR7/6 明黄褐色 砂岩質で粘土ブロックを含む、地山面



図版7 十輪寺跡土層断面図

市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者	木村明史・櫛間史朗
遺跡名	曲田遺跡		所在地	佐土原町大字上田島字曲田	
調査原因	巨田地区県営農免農道整備事業		調査面積	約 3,650㎡ (試掘面積約80㎡)	
調査期間	平成10年 10月20日～10月30日 12月16日～12月21日		調査後の処置	埋土	
遺跡の種別	散布地		遺跡の主な時代	弥生・近世	

検出遺構	なし
出土遺物	陶磁器片 土器片
特記事項	試掘調査範囲の道路沿い南北約1kmの中にトレンチを東西方向に設定し、50cm掘り込んだところで地山面が出土したが、遺構を検出する事はできなかった。出土した遺物については、周辺の高地より流入したものと推測される。



第3図 曲田遺跡調査区図



図版 8 曲田遺跡調査地空中写真



図版9 曲田遺跡調査区全図

1 地区



4 地区



5 地区



图版10 曲田遺跡土層検出状況写真

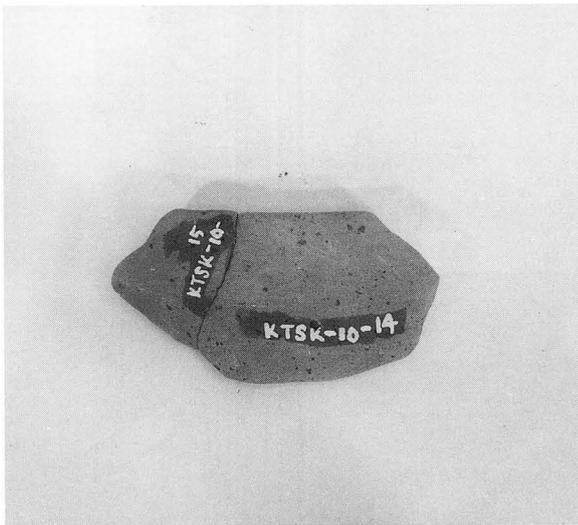
1.



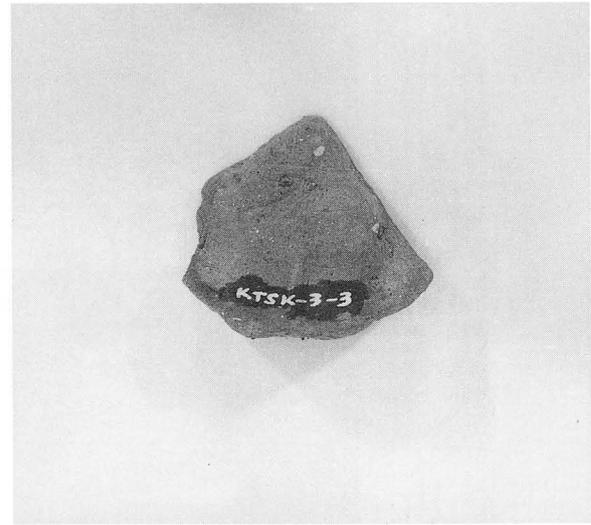
2.



3.

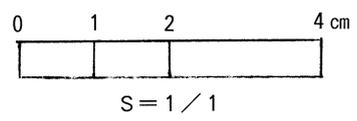
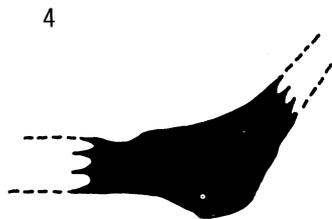
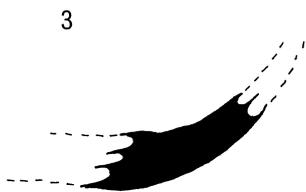


4.

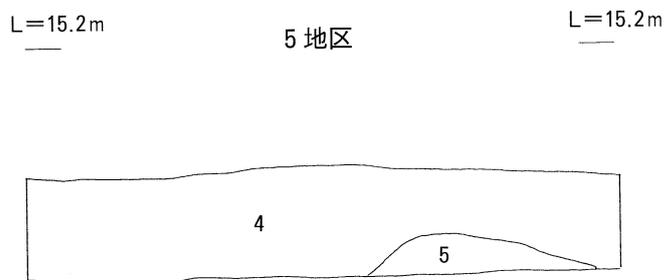
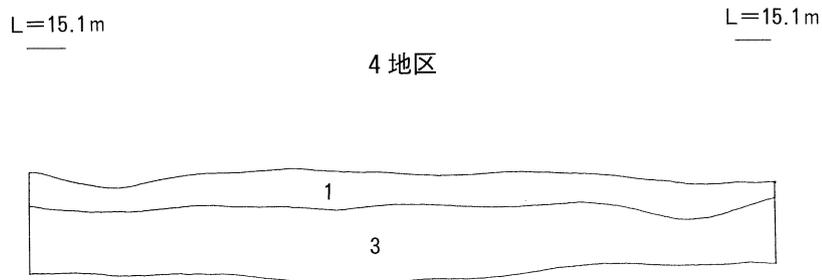
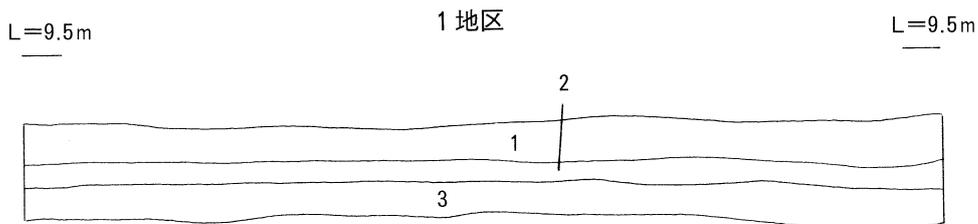


1. 弥生土器・口縁部 2. 土師器・胴部 3. 土師器・底部 4. 土師器・底部

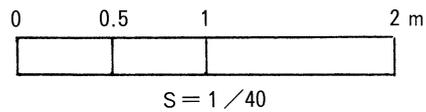
図版11 曲田遺跡遺物写真



图版12 曲田遺跡遺物実測図



- 1 10YR3/1 黒褐色 耕作土層
- 2 10YR7/8 黄橙色 堆積層、微粒子、粘性中
- 3 10YR5/1 褐灰色 堆積層、粘性小、下位部硬質化
- 4 10YR8/3 淡黄色 砂質の層、2～3mmの粒子を含む
- 5 10YR7/1 灰白色 砂質の層、粘性大



図版13 曲田遺跡土層断面図

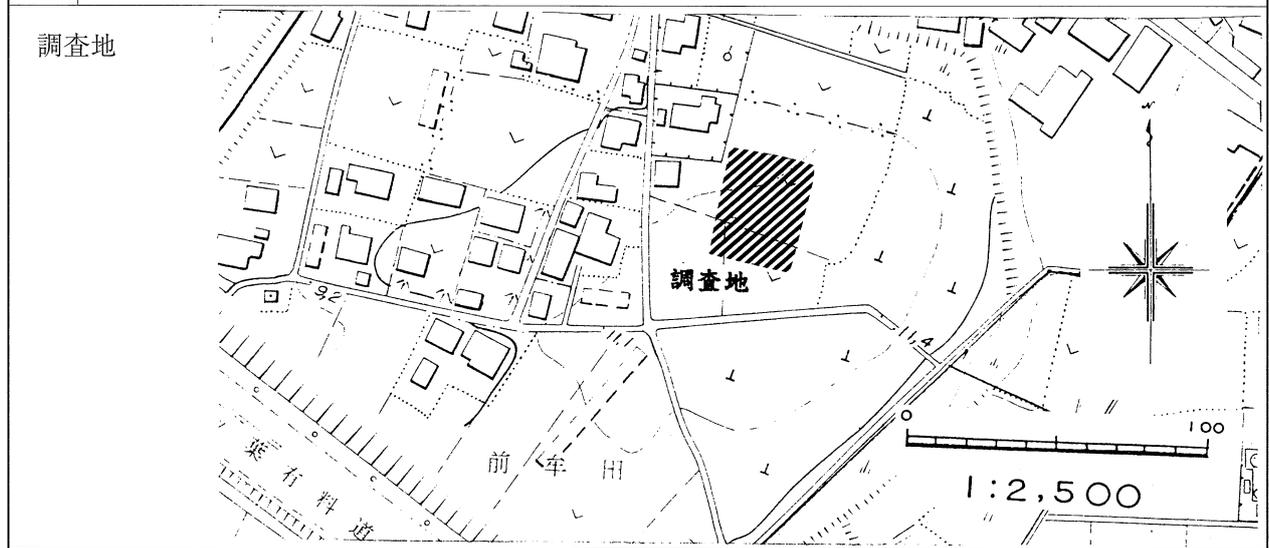
市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者	木村明史
遺跡名	石崎地区遺跡（仮称）		所在地	佐土原町大字下田 ^{なかもぞ} 島字中溝	
調査原因	石崎地区土地区画整理事業		調査面積	約 200m ²	
調査期間	平成10年12月3日 ～12月22日		調査後の処置	埋土	
遺跡の種別	無し		遺跡の主な時代	無し	

検出遺構	無し				
------	----	--	--	--	--

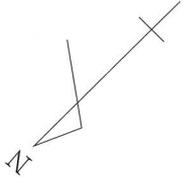
出土遺物	無し				
------	----	--	--	--	--

特記事項

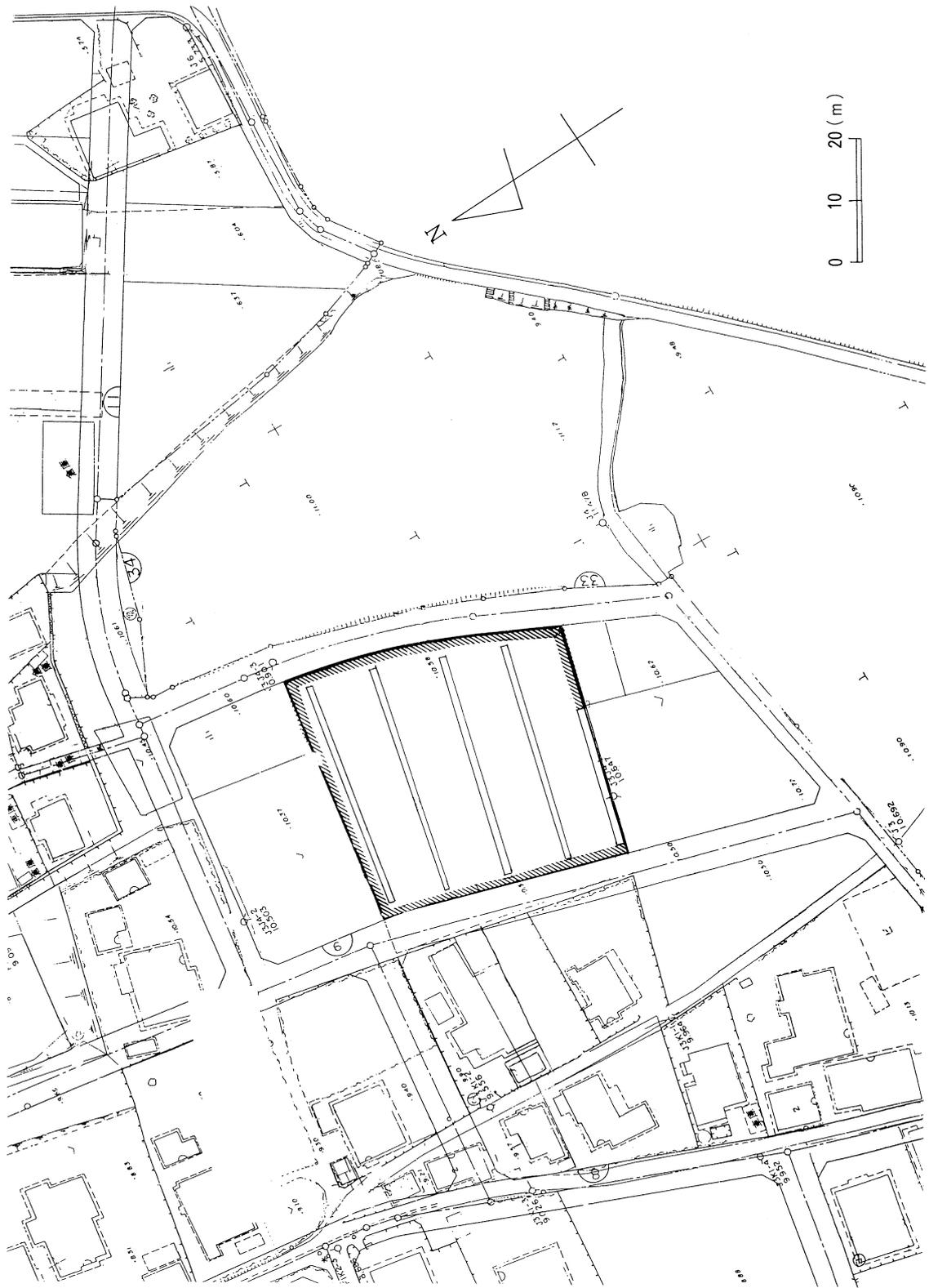
東西方向に5カ所トレンチを設定し、1m掘り下げ、灰白色の砂質土壌の堆積が2層確認された。両層とも自然による堆積で1部黒褐色の腐植土が含まれていた。



第4図 石崎地区調査区図



図版14 石崎地区調査地空中写真



図版15 石崎地区調査地平面図



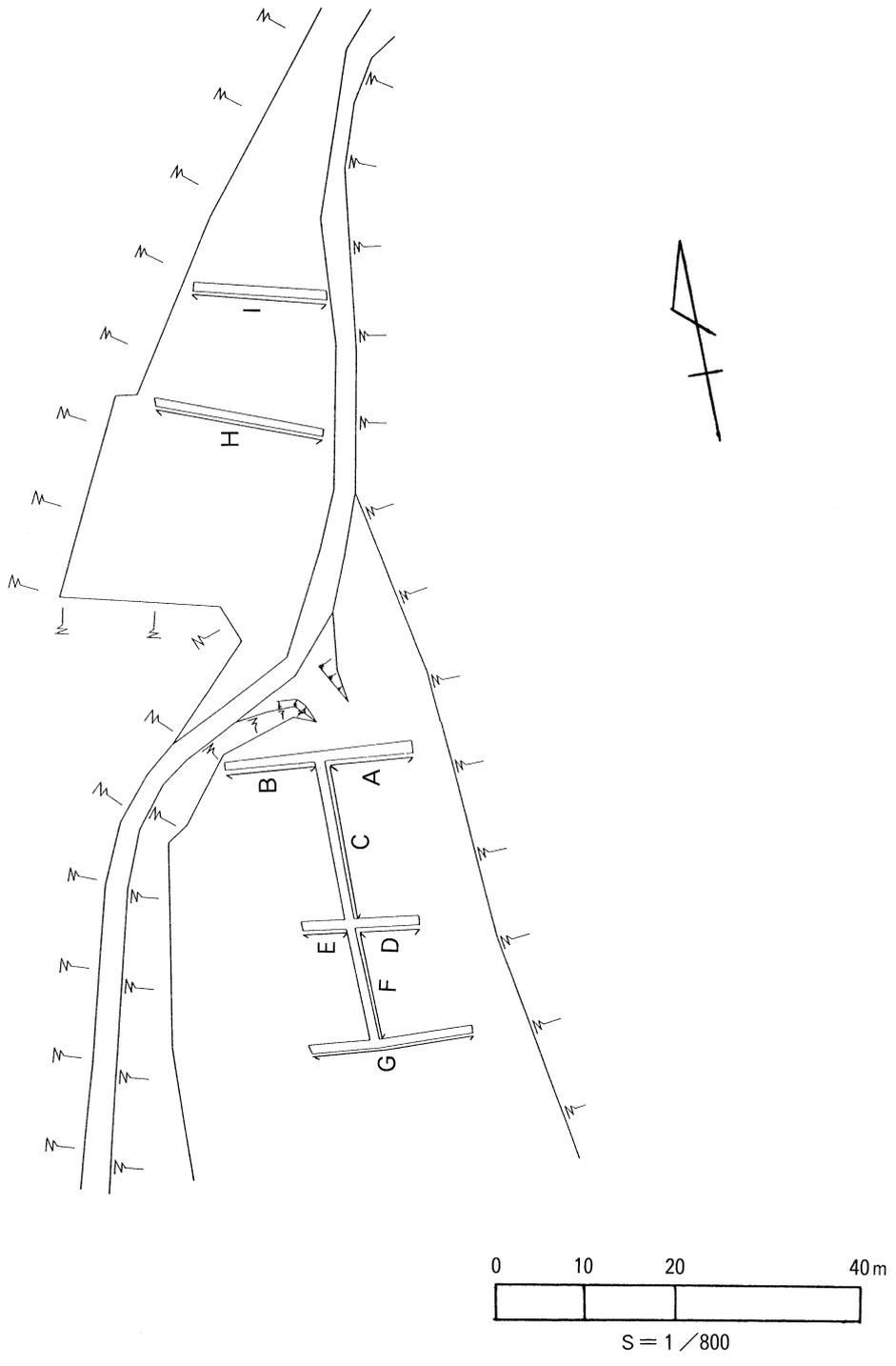
図版16 石崎地区調査地全景写真

市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者	木村明史・櫛間史朗
遺跡名	宝塔山地区公園遺跡（仮称）		所在地	佐土原町大字上田 ^{ひやくかんち} 字百貫地	
調査原因	宝塔山地区公園整備事業		調査面積	約 800㎡（試掘面積105.95㎡）	
調査期間	平成11年 1月13日 ～ 2月8日		調査後の処置	埋土	
遺跡の種別	散布地		遺跡の主な時代		
検出遺構	無し				
出土遺物	無し				
特記事項	<p>当調査地は、宝塔山の東側丘陵谷筋沿い下部で水流の道筋にあたる。従って人が定着する条件としては、不十分と考察される。しかも当地は工場跡地で造成工事が行われていたので、遺構を正確に検出するには至らなかった。</p>				
調査地					

第5図 宝塔山調査区図



図版17 宝塔山調査地空中写真



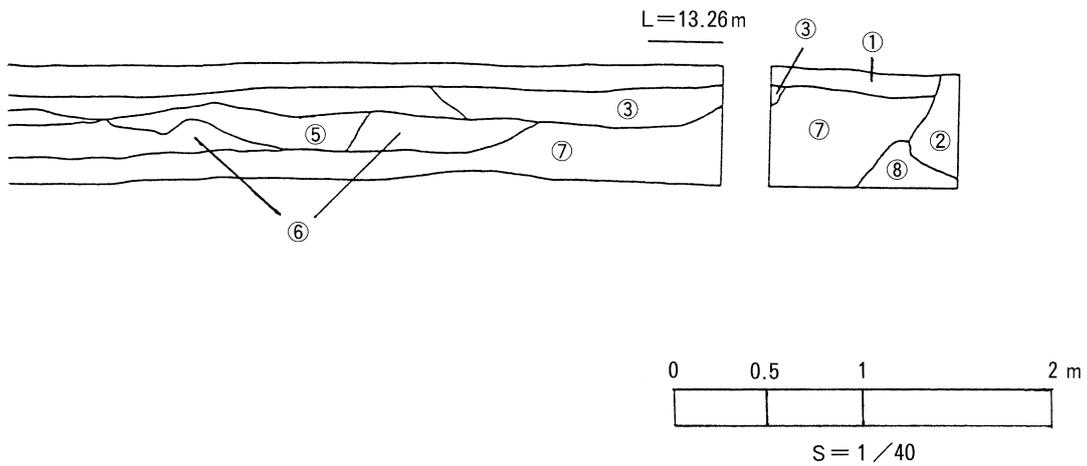
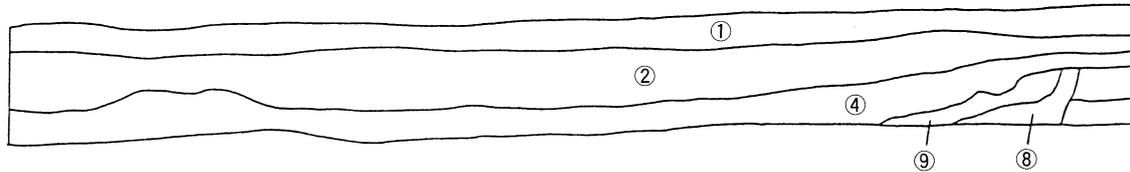
图版18 宝塔山調查地平面图



图版19 宝塔山土层检出状况写真

トレンチB

L=13.26m



- | | | | |
|---|---------|--------|-----------------------------|
| ① | 10YR3/1 | 黒褐色 | 現地表面 |
| ② | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 5~20cm大の礫を含む |
| ③ | 10YR6/8 | 明黄褐色 | 5cm位の礫を含む |
| ④ | 5YR2/2 | 黒褐色 | 炭化した植物を含む |
| ⑤ | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 0.5~1mm大の細粒子、砂質粘土層 |
| ⑥ | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 5cm位の礫を上位に含む、砂質粘土層 |
| ⑦ | 10YR4/1 | 褐灰色 | 0.1~0.5mm大の微粒子、橙色の斑点を含む、粘土層 |
| ⑧ | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 炭化物を多量に含む |
| ⑨ | 10YR5/1 | 褐灰色 | 粗粒子の砂岩層 |

図版20 宝塔山土層断面図

Ⅳ おわりに

- 十輪寺は、宝塔山の頂上部にあり愛宕神社の別当寺での創建年代は奈良・平安期に築かれたと推定される。確認調査では、建物の痕跡の一つである掘立柱が1穴しか検出できていない。奈良・平安期が創建であると、かなりの長い期間に渡って使用されたと考えられる。そうすると建替えが頻繁に行われていたと想定されるがその痕跡の柱穴がわずかである。また、礎石を伴う強度を保つ建築痕も検出できなかった。出土遺物は瓦・土師器・陶磁器等で、瓦・陶磁器は近世、土師器は古代期で総体的に出土量は少ない。従って建物構造は、掘立柱による簡易な建物が短期間に存在していたと推測できよう。
- 曲田遺跡は、山間の谷沿いと川筋に位置していたので日常的に水流の増減の影響を受けていた。さらに海進により一時的に生活範囲が限定された。従って人々が定住し生活を営むには、自然環境の面において厳しい条件下であったことが推測される。
- 石崎地区遺跡は、砂丘の頂部にあたり、東側100m方向に伊賀給遺跡（弥生後期水田跡）、南西側100m方向に中溝遺跡（弥生後期住居跡）が点在している。調査地は立地上、集落地の条件として適地であるが今回は生活包含層が確認できなかった。
- 宝塔山地区公園遺跡は、宝塔山の東側丘陵谷筋沿いで水流の道筋に位置する。水流の道筋にあたる場所は、人の定住を拒む要素として働くので生活の痕跡（生活包含層）を確認することはできなかった。

今回の調査において、上記の事実が証明された。

宮崎県佐土原町文化財調査報告書第13集

1999年3月

編集・発行

宮崎県宮崎郡佐土原町教育委員会

〒880-0297 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下田島20660番地

TEL 0985-73-1111

印刷 (有) 印刷センタークロダ

〒880-0022 宮崎市大橋2丁目175番地

TEL 0985-24-4351